



週報

2015~2016 年度 RI 会長 K.R. ラビンドラン
RI のテーマ 『世界へのプレゼントになろう』
第 2570 地区 ガバナー 高柳 育行

国際ロータリー
第 2570 地区

狭山中央ロータリークラブ

〔例会場〕 狭山東武サロン 〒350-1305 狭山市入間川 3-6-14 TEL 04-2954-2511
〔事務所〕 〒350-1305 狭山市入間川 1-24-48 TEL 04-2952-2277 FAX 04-2952-2366
<http://www1.s-cat.ne.jp/schuohrc/E> - mail:schuohrc@pl.s-cat.ne.jp
会長 江原伸夫 会長エレクト 佐藤圭司 副会長 浜野貴子 幹事 小島美恵子

〔第 3 グループ内の例会日〕 新狭山(月)、入間(木)、入間南(火)、飯能(水)、日高(火)、狭山中央(火)
所沢(火)、新所沢(火)、所沢西(火)、所沢東(木)、所沢中央(月)

第 1084 回(5 月 10 日)例会の記録

点 鐘 江原伸夫会長
合 唱 国歌斉唱 奉仕の理想
第 2 副 SAA 石川君 片山君
卓話講師 医療法人 尚寿会理事長
大生病院 院長 寶積英彦様
米山記念奨学生 ホロワさん

※出席報告

会員数	出席者数	出席率	前回修正
35名	29名	81.82%	79.41%

会長の時間

江原会長



こんにちは。本日は(医)尚寿会理事長、そして大生病院院長の寶積英彦先生にお越しいただいております。平素よりお忙しくなされていることは存じ上げておりますが、外来卓話をお願いいたしましたところ、前回に続き今回も快くお引き受け下さいました。本当にありがとうございます。後ほどの卓話の時間を宜しく願い申し上げます。

さて、今日の私の話ですが、先月 25 日に 2020 年東京オリンピック・パラリンピックのエンブレム採用作品が決定しましたので、次回の会長の時間は、それに乗じて 1964 年に行われた東京オリンピックの私の思い出話をさせていただきたいと考えておりました。

そのようなことを考えていたので、翌 26 日の「パスト会長の時間」での若松パスト会長の第一声が、エンブレムの採用作品の決定、作者の方のお名前が野老(ところ)朝雄氏といい、名字の読み方が珍しいとお話しされた時にはドキッとしましたが、やはり敬愛する若松パスト会長ですね。エンブレムのお話を切り出しに、そこから、日本人のモノづくりの素晴らしさという事で、隣接する富士見市にある、辻谷工場の砲丸投げに使用する砲丸、特にオリンピック選手が使用する際に選択される砲丸造りに賭けた職人、辻谷政久さんの考え方、ご家族の考え方についてお話しをして下さいました。私はお話しに聞き入っていたと同時に多少ほっとしていました。

本題に入ります。今回採用されたエンブレムは、「組市松門」をテーマとして、歴史的に世界中で愛され、日本では江戸時代に「市松模様」として広まったチェッカーデザインを、日本の伝統色である藍色で、粋な日本らしさを描いたものに仕上がっているそうです。形の異なる 3 種類の四角形を組み合わせているのは、国や文化、思想などの違いを表しており、それらの違いを超えてつながり合うデザインに、「多様性と調和」のメッセージを込め、オリンピック・パラリンピックが多様性を認め合い、つながる世界を目指す場であることを表しているそうです。確かに素敵なエンブレムだとは思いますが、私は 50 年前の東京オリンピックで採用されたエンブレムが脳裏に強くインプットされているせいか、理由のない多少の物足りなさを感

じています。

あの時代と今の時代の国全体としての、或いは国民一人一人の、わが国で行われる世界的な行事に対する捉え方の違いなのか、それとも今から思い返すと、当時は周りの大人たちも、戦前決定していた東京オリンピックが戦争によって中止となり、戦後になって再度決定し、やっと実現した東京オリンピックだと喜び、それを起点として、国としてのさらなる飛躍を目指していたような気がします。そのような日々の躍動感を目の当たりにして、当時子供だった私も、心躍るような高揚感があつたという記憶が残っていますので、そう感じているのかもしれない。

今年行われるリオデジャネイロオリンピック・パラリンピックの次は東京と決定してから既に一年以上経ちますが、いろいろ問題があつたにせよ、今一つ盛り上がり欠けていると感じているのは私だけなのでしょう。今のお子様たちも当時の私たちのように心躍るような高揚感があるのでしょうか。今年のリオデジャネイロオリンピック・パラリンピックでの日本選手の活躍を願っていることは勿論のこと、次の東京オリンピック・パラリンピックに向けて、選手だけでなく国を挙げて更なる飛躍を目指していかなければならないと思つています。

1964年の東京オリンピックで採用された、あの「日の丸」や「太陽」を連想させるエンブレムは、「日本的なものを加味した国際性のあるもの」という考えのもとに選定に入り、選ばれたのが亀倉勇作氏の作品でした。シンプルながらも力強いメッセージ性が備わっている・・・と絶賛されたそうです。

縦長でスペース一杯のデザインですが、当初は、エンブレムを中心にもう少し横幅が広がったそうですが、よりシンプルさを際立たせるために、両サイドを狭めていきスペース一杯のあの形になったようです。

冒頭に述べた今回のエンブレムに多少の物足りなさを感じているのは、私の子供時代への郷愁が強いせいで、本当は開催決定後の同時期としては今と大差はなかったのかもしれない。

今回の東京オリンピック・パラリンピックも、こ

れからの4年間で日本国中が多いに盛り上がり、世界に向けて、すべての分野で先駆けられるよう、また、江戸時代には既に評されていたとされ、近年は世界の多くの人々に認知されつつある、日本人の民度の高さ、道徳心の高さを併せ持って、世界に貢献していく国力を示してほしいと願っています。

そのようなことを考えながら今回の話をまとめているうちに、今の自分にも、先ほど述べた子供の頃のわくわく感が戻ってきたような気がしています。

あと4年、どうか皆様、お互い元気でその瞬間を迎えましょう。そして、共にわくわく・ドキドキ感を楽しみましょう。

幹事報告

小島幹事

1. 国際ロータリー年次大会 (On To Seoul) ガバナーズナイト開催のご案内について。
2. ロータリー米山記念奨学会より、米山功労クラブ感謝状について。
3. 第3グループ新旧会長・幹事会開催について。
4. 日高RC事務局移転により住所変更について。
5. 第3グループ次年度役員・理事のお知らせ。
入間RC、所沢RC、新所沢RC
6. 埼玉県腎・アイバンク協会より第27回総会のご案内と感謝状進呈について。
7. 平成28年度青少年を育てる狭山市民会議及び第1回理事会について。
第2回「青少年を育てる狭山市民会議理事会」開催について。
8. 受贈会報 新狭山 所沢東 所沢中央 所沢西 各RC
9. 回覧物 AAR ニュース 5月号

◆ 表彰

○米山記念奨学会より、特別寄付金 米山功労者 古谷 博会員、小島 美恵子会員に感謝状が来ております。

○第12回 米山功労クラブとして感謝状。

表彰年月 2016年4月

米山記念奨学生 挨拶 ホロワさん

皆さん初めまして。こんにちは。私は中国から参りましたホロワと申します。ロータリークラブの皆様へ心から感謝致します。



本当の名前は、とても長いので、後のホロワという言い方をしています。名字がなく、名前だけです。ホロワという名前の意味は、世界という意味です。中国の中の内モンゴル自治区です。

日本に来て3年になりました。今大東文化大学の大学院を目指しています。アジア地域研究科です。研究しているテーマは、内モンゴル牧畜民の減少についてです。今後の目標は、博士課程を目指しています。宜しくお願い致します。

「外来卓話」・・・・・・・・

「近隣諸国の医療について」

医療法人 尚寿会理事長・大生病院 院長
寶積英彦様



尚寿会の寶積と申します。今日は宜しくお願い致します。

先に私事ではございますけれども、皆様の厚いご支援を頂いて、先週の日曜日、先代の一周忌を無事に迎えることができましたので、感謝致します。色々ありがとうございます。先代は晴れ男でしたので、皆さんご存知の通り日曜日は猛暑の中、お墓で30分位、とても有り難いお経をあげて頂きました。息子一人と娘が、あまりの暑さに倒れそうになりましたが、こんなに明るい日は滅多にないということで、先代らしいなと思いました。

今日は卓話ということで、一番初めにここで話させて頂いた時にも言わせて頂いたのですが、「卓話」を辞書で引くと「テーブルを囲んで皆で話し合う」と出てきますので、なるべく身近な話題で、親しみやすい内容のお話をしようかと思っております。

内容自体は、今年の3月頃でしたか、「近隣諸国の医療制度、医療の文化」というセミナーに出席して参りましたので、その内容を掻い摘んで、少し興味がわく内容の所を皆さんにピックアップしてお話できればと思っております。

何故こうしたセミナーに行くかということ、よく先代に聞かれました。私が先代から理事長を受け継いだのが昨年です。そして副理事長という、先代のサポートをするという形で職についていた期間が約5年間あったのですが、その間にやはりどうしても組織が大きくなるとなかなか皆で勉強する機会がないということで、たくさんのセミナーや、皆でまとまって色々勉強する機会を設けることに致しました。昨年は法人の主任を40人連れて、ディズニーランドに行ってきました。当然ディズニーランドと聞くと遊びのイメージが強いかもしれませんが、なぜあそこに皆惹かれて行くのか、あれだけ多くの方々が惹かれて行くためには、それだけの魅力があるのだ、ではその魅力を出すためには私たちはどうしたら良いのか、それを学びに皆で行ってきました。40人での一日の実地、座学もありましたが、非常に有意義な一日でした。

一昨年は、当然現場主任等が一生懸命勉強するのであれば、管理職はもっと勉強しなければいけないのではないかということで、外部講師をお願いして、法人の部長職以上に全員出席して頂きテストを致しました。私も浅はかな所があったのですが、テストをすると点数が出てしまうのです。そうすると副部長職以上という形にしたのですが、必ず病院長や重役職者の点数が高いわけではなく、逆転現象が起こってしまうのです。この結果をどの様に皆に伝えようかと非常に悩んだのですが、点数と言うものだけを評価する訳ではありませんけれども、数字は数字で一つの結果であるという解釈をして頂くために、やはり一人ずつ直接会わせて頂いて、30名程度でしたか、このような点数

でこういう順位でしたということをお伝えさせていただきました。6名程、20年も務めているのにこんなテストをして、こんな点数が出るなんて納得いかないと言っておりましたが、学習をしていくということは組織を活性化していくということですので、大切なことだという事で理解して頂きました。

私が一番記憶に残っている勉強会は、4年前に行った勉強会です。その時も「医療法人の運営と経営」ということで、私が探してきた講師に法人に来て頂いて、約半日間、色々座学で学習を致しました。その時は約30名の管理職と先代も一緒に出席をしてくれました。始まって2時間位たった時に何が起こったかといいますと、やはり先代は創始者であったので主張が強いのです。そのため非常に温和でわかりやすく、良い内容の講演だったのですが、何かある度に「それは違う」、「間違っている」とあまりにも言うので、途中で中断になってしまいました。経営者というのはある程度の強さが必要だと思いますが、もう少し話を聞く柔軟性も必要なのではないかと、その時思いました。しかし特にコメントもせず、そういうこともあるのだと、その日は閉幕したのを覚えております。しかし悔しいので翌年もう一度行いましたが、そうしたら先代は出席して下さいませんでした。

そういった過程で色々、たくさんの勉強会をしております。法人の中で勉強会をするということは、当然私も外に勉強しにいかねばなりません。たくさんの経験があれば、プラスになっていくと思いますが、経験だけでは多くの職員に正しいことをきちっと教えていくことは出来ないと思っておりますので、自分の学習ということでこのセミナーに参加しております。

参加したセミナーは「近隣諸国の医療制度」とお話ししましたが、ではなぜ周辺地域を見に行くのか、具体的にいうと参加なさった国の皆様とは、日本、中国、韓国、台湾、フィリピン、インドネシア、タイ、シンガポール等を含めて11か国の方々です。まず私がこのセミナーに参加する理由というものが2つあります。一つは皆様に変な資料をお配りしましたが、語学のことなのです。

実は私、語学と言うものが非常に苦手で、高校生の時に当然ですが英語を学びます。そして私はド

イチェ関連のスクールに通っておりましたので、ドイツ語も学びました。大学生の時には、医学部は6年間通うのですが、英語とフランス語を学びました。卒業して2年後に大学院に入って、4年間博士課程に進むのですが、そこでも英語とドイツ語を勉強していたのです。しかし実際に社会に出てみて何に気づくかと言いますと、「This is a pen」という文字は書けるのですが、15年間もかけて語学を学んできたはずなのに、海外の方と目をあわせると「I am a pen」となってしまう、一言も話ができないのです。そして非常にそこにコンプレックスを感じておりました。

息子(中3)、娘(小6)は、たまたま教育制度が違う事もあるのかも知れませんが、一般会話ができます。そうした中で、お父さんは海外の方と会うと「I am a pen」と言ってしまう、これはまずいのではないかという事で、ちょうど8年くらい前ですか、勉強しようかと思い、生まれて初めて英会話スクールに通い始めました。結果は惨憺たるものです。本当に行きたくなかったのですが、そこを逃げていた自分がとても嫌で、また家族で海外旅行に行っても、もじもじしていて恥ずかしい、何とかしたいという気持ちもあったので、嫌々通っておりました。私のいたクラスとは中学2年生と同じクラスなのですが、スキルが無いのであげてくれないのです。行く度行く度恥ずかしくて、5人のクラスだったのですが、私40を超えたおやじと、中学2年生が2人、小6が1人、そしてもう一方ご年配の方がいらっしゃいましたが、そうしたトラウマの中で何とか語学を学びたい、例えば映画を見たときに、映画の内容くらいわかるようになりたい、海外のセミナーがあれば、自分の耳で、自分で聞きたい、そしてもう一つの目標として、経営者の方はご存知かと思いますがドラッカーの有名なあの本を原書で読みたかったのです。訳された本は日本でも山ほど売っておりますが、どうしても人が訳した本というのは訳した方の主観が入ってしまうと思いましたので、何とか勉強してあの本を自分で訳したいと、必死に通いました。

2年通い3年通い、5年通いとなっても芽はでません。もともとセンスもありませんし、基本的に語学力に優れた方というのは、英語に限らず日本語

の文章がきちんとした方が多いらしいのです。私の場合まずその基本ができていないものですから、通っても通ってもなかなか覚えられません。書物だけでも、よく本屋さんに行くと売っている英語の本 100 冊くらい読みました。英語のスクールも途中で辞めたり入ったり、週に 1 回、2 回行ったりと色々な過程はありましたが、何とかここ最近になって、私の外来で海外の患者さんがいらっしやったといった時に、奮闘すると少しコミュニケーションがとれるようになりました。

一生懸命学んだことを、身についたかどうか確認をしたいと思って、この海外のセミナーに今回参加したということが、まず一つ目の理由です。

もう一つの理由というのは、単純に、運営や経営をきちんと勉強しなかったからです。皆さん御存じでしょうが、国民皆保険制度というのは、非常に制度が高く完成されたものだと言われ海外からは言われていますが、現実的な所、かなり制限が多いのも事実です。そういった制限のある中で、どうしても狭い視野になってしまうのが嫌だという事で、色々な事をもう少し大きな視野でみるためには、もう少し上を向かなければ学習ができないということで、あえて海外のセミナーに出席することに致しました。

せっかく参加をしてきましたので、いくつかの諸国がどんなことに困っているのか、どんな形で医療を行っているのかということ、少しご紹介させて頂こうと思います。但し、通訳を使わずに自分で聞いてきたものですから、訳しきれていない部分があるかもしれません。勘違いです。聞く中で、例えば一つの文章があった時に「NOT」という表現を私が聞き逃してしまうと、まったく違う訳の内容になってしまうかもしれません。

まず始めに、高齢化問題というものが当然出ておりました。どの国も避けては通れないということで、70%は高齢化問題のお話をしていました。途中、当然少子化の問題のお話も聞きましたが、私の聞く範囲では、日本もそうですが、7割方が高齢化の問題を話していました。その中で、これは日本のプレゼンターがお話していた内容なのでそのまま皆さんにお伝えしますが、日本の医療制度も含めて、若干課題があります。

一つは高齢者の定義ということです。今高齢者の定義とは、65 歳以上が高齢者ということに日本では決まっております。75 歳を超えると後期高齢者という言葉にはなっておりますけれども、皆さんご存知でしょうか。高齢者の 65 歳の定義というのは、1965 年に作られたもので、かなり昔のものです。その時の男性の平均寿命が 68 歳、女性の平均寿命が 72 歳、ですから男性の平均寿命を考えて、65 歳以上を高齢者と定義致しました。しかし今年、男性の平均寿命は 79 歳、女性が 88 歳ということで、1965 年と比べると 10 歳、15 歳と延びています。それでも同じ定義で、65 歳を高齢者にしているというのは、やはり訂正する余地があるのではないかという内容のお話をしておりました。因みに、日本の高齢化率の定義とは、65 歳を超えた方が日本の人口の何パーセントいるかということですが、最新データでは 26.8%となっております。しかし 65 歳ではなく、男性の平均寿命ですら 79 歳になっているわけですから、高齢者の定義を 75 歳にきちんと補正することができると、高齢化率は 13%まで下がります。

この問題に関しては、かなり多くの方々が 65 歳という年齢を高齢者とし、せめて 75 歳とするのが良いのではないかというお話をしておりました。

もう一つ私が面白い話をするな、という内容がありましたのでご紹介致します。

「正常性バイアス」という言葉がありまして、これはもしかしたら造語かも知れないのですが、「認知的不協和」と言う意味だそうです。これは人間の安全装置といった内容だそうで、ではこれは何なのかと言いますと、私が今、高齢者とは 65 歳ではなく 75 歳の方が良いのではないか、高齢化の問題が今日本の近隣諸国で問題になっていますよというお話を、例えばこの場でさせていただきます。もう少し発展させたお話をさせて頂くと、まだ 50 年弱くらい先のお話ですが 2060 年には日本の人口が 9000 人を切りますとお話します。9000 人を切るイメージと言うのは、皆さん今私がお話したことによって、いくらか頭には入られたと思います。そして先ほどお話した高齢化問題のことです。ではこれが「正常性バイアス」「認知的不協和」とどういう関係があるのかと言いますと、絶対に来ることがき

ちんとわかっている、自分は大丈夫だと思う事なのです。要するに理論的には明らかに矛盾していても、自分に対して都合よく考えてしまうというこの話をしていました。

高齢化問題とはどのメディアでも明らかにされておりますし、多くの方々が新聞やその他で目にします。しかしいざそれを自身に持ってきたときに、私は違う、私の時には何とかなると自分に安全装置をかけてしまうということなのです。安全装置をかけてしまうが故に、この問題の解決策が永遠に見つからないという話をしていました。とりとめのない内容で申し訳なかったのですが、「正常化バイアス」という言葉が非常に頭に残ったものですからお話させて頂きました。

近隣諸国の今の状況を少しお話させていただきます。日本は今お話した通りで、高齢化の手本のような国で、どんどん高齢化が進んでいます。但し今お話させて頂いた正常化バイアスという考え方、周りの方は歳をとる、しかし自分は歳をとらないと思っている方が非常に多い国だという話をしていました。

韓国が今どのようになっているかといいますと、日本は高齢化問題が脚光を浴びてきたのが 1970 年代と、もうずいぶん昔となります。しかし韓国が高齢化問題、高齢化社会というものに直接目を向け出したのは 2000 年なのです。まだ韓国と言う国は高齢化問題というものに直面して 16 年しかたっておりません。但し韓国の高齢化のスピードは日本よりも速いと言われております。日本よりも速いスピードで韓国は高齢化が進んでいる、しかし進んでいることに気付いたのが 2000 年であったということで、日本よりも深刻な状況で多くの高齢者を迎えているというのが現状です。

この中で、韓国で今一番大きな問題という、急速に進んだ高齢者を迎え入れる施設がありません。理想論だけお話してしまえば、当然そうした方がご自宅ですと生活してくれば何の問題もないのかも知れませんが、自宅で生活が出来ない方を収容する施設がないということが、非常に大きな問題になっているそうです。そこで何が起こったかといいますと、2000 年には高齢者を収容する施設、例えば特別養護老人ホームであったり、老人保

健施設、長期に入院できる病院が首都圏に 13 個でした。しかし 2009 年、9 年の間に 760 個に増えたのです。施設が増えれば、そこに入ることができる方がたくさんいらっしゃいます。ハードは揃いました。しかし何が起こったかと言いますと、ワタミ化現象のようなものが起きてしまったのです。要するにたくさんの施設ができる、組織が大きく拡大する、そういった中でソフトがついて行かない状態ができてしまったのです。100 人、200 人入所できるといった施設で、夜勤の時間になると 1 人の看護師さんが 200 人看ているといった施設ができてしまったのです。要するに経営者の哲学、理念の欠損というものが非常に大きな問題を迎えているのが韓国の医療事情だという話をしておりました。

インドネシア、この国も印象深かったのでお話させていただきますと、医療のレベルということに関しては非常に遅れております。当然のごとくインフラの整備というものは、全くできておりません。そのため一部の裕福層の方々はご自身でお金を払って、医師・看護師に自宅に来てもらうというシステムを今もとっております。この裕福層という方たちなのですが、ほとんどが現地民単体の方ではありません。現地の方で海外の方と結婚なさった方、もしくは身内に海外の方がいる、もう少し具体的にいいますと、ご主人が日本人、ご主人が中国の方、親戚に日本人の方、イギリス人の方がいる、そういった家族が裕福層と定義されております。そのため現地の方々に裕福な方々はほとんどおりません。そうした方々が本当に病気になってしまった時にはどうするのかという中で、一つでできたお話は、朝 90 歳近いおじいさんを家族で担いで寺院に連れていきます。そして朝からお昼過ぎまでお祈りを頂いて家に帰ってくる、そうした現状もまだ本当に残っているとの事です。

タイは、医療レベル、看護、介護、リハビリテーション、全てにおいて世界でトップレベルのものだとお話されておりました。特にコスメティック、これは表現が適切でなかったら申し訳ないのですが、文化の違いもあるかもしれません。男性に生まれてきたけれども気持ちが女性であったりといった時に、ご自身の外観も変えられるという方が非常

に多い文化の国でありますので、形成外科、コスメティック、外科的な治療に関しては世界レベルだと話しておりました。

これはあまり聞き取れなかったところなのですが、タイでは一部の事に関しては、形成の手術でも保険適用だというお話をしていました。日本では例えば鼻を少し高くする、目をもう少しパッチリしたいといったことでは、完全に自費診療という形になっておりますが、バンコクでは一部は保健診療で賄っているというお話です。

中国、当然この国も長い歴史を持っていて、たくさんのガイドラインや色々なマニュアルというのが非常に整理された国だと評価を受けています。ただ一つ面白いと思ったのは、リハビリテーションというものの中に太極拳、気功が取り入れられているらしいのです。太極拳や気功とは、日本では趣味等でご存知の方もいらっしゃると思いますが、あまりリハビリテーションとしては取り入れられていないものですから、非常に珍しい習慣だと思いました。

最後にアフリカです。ここはプレゼンテーションをなさっていた方もそうですが、随分多くの方々に色々批判的な意見を言われていました。何故かといいますと高コスト、低効率、皆保険制度の腐敗という形です。医療関係の出費は世界一、研究技術は世界の頂点にあります。但し平均寿命と健康寿命が世界でも非常に短いということを言われています。

アメリカのプレゼンターがお話されていたのですが、ここにはかなり色々な制度、理念、宗教上の問題があるというお話をしっていました。この宗教上という意味が、私には若干理解し得ない部分もあったのですが、例えばマイケルジャクソン、お亡くなりになりました。またプリンスも先日お亡くなりになりました。また有名な女優さんもご自宅でお亡くなりになっておりますが、死因が公開されておりません。やはりなんらかの宗教的な要因があって究明ができなかったというケースなのです。

スーパーベジタリアン、野菜しか食べない方、その方は例えば食事がとれなくなったときに、日本ですと鼻からチューブを入れてタンパク質等栄養

価が高い物をいれます。但しスーパーベジタリアンの場合には、鼻からチューブを入れてタンパク質を入れることはできません。要するに肉食主義者ですので、野菜しか入れることができないので、結局栄養が足りず絶命してしまうケースもあるということです。

もう一つ、保険制度についてです。オバマケアというのが何年か前に皆さんの耳に入られたと思いますが、日本の国民皆保険制度を模範として、アメリカも皆きちんと保険に入ろうという保険制度を、現オバマ大統領が提案致しました。この保険制度は一部誤って情報として日本に入ってきている所があって、現実的にはオバマケアは約7割にしか普及をしておりません。そしてオバマケアとは、日本の国民皆保険制度とは全く違うものです。

私たちは国に皆で助け合おうという形で、県・市・国にいくらか決まったお金を皆で出し合って、それを分配して皆平等に医療を受ける、これが国民皆保険制度です。オバマケアというのは、保険に入ろうということまでは一緒なのですが、民間保険でも入りましょうというのがオバマケアです。そのため、国からカバーされている人たちというのは一部の裕福層で、他の方たちというのは、例えば私たちが普通に入る生命保険、色々な保険会社がありますが、そういった民間の企業の保険には入りましょうということが総括されたのがオバマケアですので、日本の国民皆保険制度というものとはまた違う保険制度です。現状ではまだうまく起動していないという話をしておりました。

取り留めないお話になってしまいましたが、皆様に一枚、びっくり和製英語という変な紙をお配り致しました。これは早稲田大学に公開講座というものがあって、そこに来ていた講師の方が、日本人は造語を作るのがとてもうまいというお話をされておりました。そしてその時に私がメモしてきたものが、この紙となります。(別添参照)

Part. I 3.ミスコンテスト はよく耳にしますが、ミスコンテストなどという言葉はないそうです。また 4.スキンシップという言葉もないそうです。そして 9.シャープペンシル、この言葉もなく、10.ワイシャツは、何処の国に行ってもそんな言葉は通じないということでした。

空港などで行う 13.ボディーチェックはボディーサーチ、ちなみにボディーチェックとは医師が聴診器をあてることを言います。ですから、海外でボディーチェックというと、何を言っているのか、裸になるのかと思われてしまいます。18.リベンジ、きちんとした訳は復讐という意味です。復讐という言葉の強さ、イギリスでは、目には目をといった位の言葉の強さだそうです。リベンジというとかなり憎しみのこもった言葉だということをきちんと覚えて頂きたいと思います。

ではもう一度チャレンジしよう、もう一度頑張ろうということは、**retry**、**rematch** となるそうです。

Part. II 22.オープンカーは **convertible car**、23.マザーコンプレックス等と言いう言葉はないそうです。そして 24.マンション、これは直訳すると大邸宅です。これは普通に **apartment**、もしくは **condo** です。26.フリーサイズ、こんな言葉はありません。

次ページ 2.アルバイト、講師の先生が必死になって説明をしておりましたが、これは基本的にはドイツ語で英語ではありません。英語では **part-time job** という言い方をします。

3.ペンキはオランダ語です。4.サボテンはポルトガル語、5.パンはスペイン語とポルトガル語がくっついた造語です。普通は **bread** です。

後ではばらとみて頂くと、こんな風に使っていた言葉が本当はこんな意味なのだというお話です。

今日はセミナーに行ってきた、近隣諸国の医療の情勢、状態という事と、なぜこんなセミナーに行くことにしたのかということをし少しだけお話致しました。卓話という趣旨でご理解頂ければ有り難く思います。ありがとうございました。

ニコニコボックス

江原君 寶積先生、お忙しい中お時間を割いて頂きまして本当に有難うございます。お話しを楽しみにしておりました、何卒宜しくお願い申し上げます。また、内モンゴルからの米山奨学生ホロワさん、ようこそお出でくださいました。これからよろしくお話し致します。

小島君 尚寿会理事長寶積英彦先生、お忙しい中ありがとうございます。お話し楽しみにしておりました、宜しくお話し致します。米山奨学生のホロワさんようこそいらっしゃいました。

東君 Horvoo(ホロワ)さん、狭山中央ロータリークラブによろしく！

浜野君 尚寿会理事長・大生病院院長、寶積英彦様ようこそお越しくださいました。本日も為になる卓話楽しみにしています、よろしくお話し致します。

米山奨学生ホロワさんようこそ。

稲見君 寶積英彦先生、今日はようこそおいで頂きました。お話し楽しみにしておりました。よろしくお話し致します。

片山君 尚寿会理事長・大生病院院長、寶積英彦先生卓話楽しみにしておりました。

益子君 医療法人尚寿会理事長、寶積英彦様、本日の卓話楽しみにしておりました。よろしくお話し致します。

守屋君 寶積先生、お忙しいところ誠に有難う存じました。

佐藤君 本日、外来卓話の尚寿会理事長、寶積先生卓話楽しみにしておりました。勉強させて頂きます。

高田君 寶積先生、今日はどんなお話しか楽しみです。よろしくお話し致します。

吉川君 二回お休みました、申し訳ございません。

吉松君 大生病院院長、寶積理事長様、本日は素晴らしい卓話を楽しみにしております。

会員誕生祝 佐藤君、吉川君

結婚記念日 江原君、沼崎君、小幡君

※次の例会

第2副 SAA 小室君 栗原(憲)君

5月24日(火)

12:30~13:30

外来卓話 富士見幼稚園園長

野々宮達也様